



# わたしの聖戦

女性が働くことについて

107

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

## 水害の年に想うこと

今年も、水害に悩まされる年になりそうだ。原稿を書いているこのときも、台風15号による大雨のため、各地で避難勧告が発令されたところである。

ような足をしており、三歳になっても立つことができなかったために海に流されてしまう。

考えてみれば、日本は海に囲まれ、大小の川が流れ、山の多い地形である。地震や津波、台風によつちゆうさらされるのはある程度仕方がないのだろう。

当時、海のかなたからやってきた異形の者は、大漁をもたらずという言い伝えがあり、今の兵庫県西浦の海岸に流れ着いた水蛭子は、漁民たちに手厚い対応を受け、現在では西宮神社の主神として祀られている。この蛭子大神は、その後えびす様として鎮座し、地元の人々の篤い信仰の対象になっていく。障がいがあるからといって、親である神が葦の舟に載せて我が子を流してしまうのにも驚きだが、そのような障がいのある子が生まれ

た原因が、子作りの際に女神であるイザナミから声をかけたことにあるそうで、それもまた二重の衝撃である。

ともあれ、水というのは神々の時代から貴いものであり、同時に恐れ敬う気持ちで自然と育まれた原因が、子作りの際に女神であるイザナミから声をかけたことにあるので、それもまた二重の衝撃である。

蛭子大神  
は、その後  
えびす様として...



たのだと察することができ。また、日本各地には「デイタラボッチ」と呼ばれる巨人伝説がある。名称は各地方によつてダイタラボッチとかダダボウダつたりする。宮崎駿監督の「もののけ姫」にも登

ボッチはからだが大きい割には気のいい赤いほっぺをしたマンガ的キャラクタである。「海苔づくりの伝説」を生業としていたところから、山に住んでいながら、やはり海との縁は深いようだ。海や川に囲まれた日本

では、水は神聖な、時に神と強くリンクしながら私たちがともにある。普段は静かで、人間の生活を支えてくれる貴重な存在だが、一歩間違えば、手がつけられないほどに暴れまくり、人の命をいとも簡単に奪い、家屋を壊し、人々を叩きつける恐ろしい本性を見せつける。牙をむくその姿に人間はなす術もなく、ただ茫然とするばかり。文明が発達し、台風の予想などは充分経験を積んできたにもかかわらず、水は、神は、私たちに容赦がない。

少し前まで「地球にやさしく」というスローガンをしきりに耳にしたが、むしろ地球や自然が私たちにやさしく接してくれていたただけであることに、ようやく気づかされた。ただひたすら祈ること。もしかしたら、人間にできるのはそれだけなのかもしれない。

イラスト・三浦義雄